

寒
廣
譚
柳
浪
作
品
集

別

卷

定本
廣津柳浪作品集

別
卷

定本 廣津柳浪作品集 別卷

限定版 二百五十部

昭和五十七年十二月二十五日發行

著者 廣津柳浪

發行者 梶野博文

印刷 早稻田大学印刷所

發行所 冬夏書房

広島市西区観音町十六―八

郵便番号 七三三

電話 (二九四) 六八〇〇

振替 広島 一七二九三

目次

広津柳浪研究

原稿「雨」について

『女子
参政 蜃中樓』——父からの遁走

柳浪の世界——『残菊』を中心に——

「今戸心中」論

『河内屋』をめぐる

柳浪の〈光明〉——「羽ぬけ鳥」の系譜

柳浪「雨」試論

「広津柳浪日記」(新資料)を読む

紅野 敏郎 一

箕輪 武雄 六

尾形 国治 三

森本 穫 四

千葉 俊二 五

田沢 基久 六

大塚 博 七

紅野 敏郎 三

(未発表資料)

日記・柳浪宛書簡

日記 まえがき

紅野敏郎 二三

日記 (明治三十四年)

三四

宛書簡

三四

幸田 露伴

三四

尾崎 紅葉

三六

江見 水蔭

一四

巖谷 小波

一四

丸岡 九華

一四

坪内 逍遙

一四

小杉 天外

一四

祖父柳浪

竹越與三郎

與謝野 寛

広津 桃子 二兎

二兎

二兎

自筆原稿「雨」の全文

[illegible]

3

5

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百

小	比	ふ	中	て	後
鯨	成	の	て	日	金
比	新	又	野	死	治
法	付	氣	比	比	入
衣	女	と	比	比	内
の	と	不	と	比	あ
部	新	い	杖	中	と
知	新	と	わ	と	形
た	山	も	う	あ	け
す	ち	四	と	く	ん
で	の	と	と	所	と
部	比	と	た	句	胸
わ	比	女	か	の	け
う	と	比	と	よ	こ
ぬ	あ	娘	す	四	娘
の	と	か	と	と	龍
は	と	部	部	と	中
、	部	と	と	娘	と
部	部	比	と	比	比
部	比	と	し	部	と

強		5	心	い	り	人	子	幼
う	娘	1	明	色	、	と	と	此
て	は	7	く	く	と	少	い	幼
よ	微	4	く		、	偏	影	幼
。	う	2	以	濃	う	然	此	此
給	2		此	を	て	若	此	神
。	は	幼	も	石	以	、	2	天
と	う	と	娘		え	餐	色	と
て	我	此	口	王	う	此	く	
ぬ	は	き	虎	勝	の	妙	七	禮
い	強	う	き	勝	に	一	七	意
。	う	の	と	此		若	と	う
地	て	て	上	童	急	若	抜	2
に	て	あ	う	縁	は	理	う	3
う	代	。	て	眼	抜	若	抜	3
う	を	。	、	ッ	け	若	若	4
強	し		新	若	う	若	若	
強	に		う	此	に	う	×	有
と	谷		ぬ	今	若	心	レ	有
3	ッ		強	作	う	心	レ	有

9

